



関ロータリークラブ

RI会長 / バリー・ラシン

2018-19年度 国際ロータリーテーマ

インスピレーションになろう "Be The Inspiration"

53代会長 / 加藤浩二

2018-19年度 関ロータリークラブ会長テーマ

行動しよう! 情熱を持って

会長 加藤 浩二

副会長 大岩寿喜子

幹事 林 昇

D2630 ROTARY CLUB OF SEKI WEEKLY REPORT

Rotary



本日のプログラム 第 2522 回例会 2018 年 11 月 6 日 (火)

「ロータリーとともに四半世紀」

パスト会長 杉浦孝志さん



前例会の記録・第 2521 回 10 月 30 日(火)12:30

『平成 30 年 7 月豪雨災害の検証報告』

関市 危機管理課 課長 波多野一人様

◆開会点鐘

◆「四つのテスト」斉唱

◆会長挨拶



本日のお客様は関市役所 危機管理課 課長 波多野一人様です。つい先日の関市の防災訓練でも市役所 2 階の災害対策本部で中心になり指揮してお見えでした。今回の防災訓練は 7 月の災害時の対応をもとに、今までの防災訓練とは異なり本番さながらの市職員と各団体への伝達、被害情報の共有と言った、どちらかと言えば行政と

関係協力機関との災害時の対策訓練で、より意味のある防災訓練ができたと思えました。本日は、あの時の上之保をはじめ武儀地区や関市の受けた被害に対する検証、それに伴う今後の対策などをお話しいただきたいと思えます。そして今回の様な豪雨災害では、津保川の氾濫や濁流に流されて、土砂、木々、化学原料(ビニール)が大量に流されました。そこで、最近、新聞紙上よく見ます、マイクロプラスチックについて少し調べてみました。このマイクロプラスチックが人体にまで検出される様になったと言う事で今かなりの環境問題になっています。マイクロプラスチックとは、一つに今回のようにビニールや、プラスチックゴミが河川から海洋に漂流し太陽光で劣化し粉々になったもの、又は人為的にマイクロサイズで作られたプラスチック、例えばフリースの服の繊維、スクラブ洗顔や歯磨き粉に含まれるマイクロビーズの粒が下水処理場でも処理されずプラスチックのまま河川放流され海洋へと流れつくものです。プラスチック容器などが原型を留めていれば、回収の見込みが有りますが、5mm 以下のマイクロ化した物は回収不可能と言われていています。それだけでも十分環境破壊なのに、そのマイクロプラスチックを鳥類や魚類が誤食し人体にも既に入っているという検査データもあるそうです。実際、北南米、アフリカ、アジアで作られる食塩の 9 割にプラスチック成分が含まれている事が調査機関の調べで分かっています。毎年、800 万トン以上のプラスチックゴミが海に流れ込んでおり、このペースで海にプラスチックが捨てられると、2050 年にはプラスチックの量

が魚を超え 99%の海鳥類がプラスチックを誤食するはめになると推定されています。プラスチックや、ビニールは人類に欠かせない原料になっています。皮肉なことに生活が便利になるほど環境破壊も早まっているのが現状です。記憶に新しい鼻の穴にストローが詰まったウミガメ、レジ袋で窒息したクジラなどの映像は衝撃的でした。しかし、わずかな望みもあります。若干 24 歳のオランダ人が立ち上げた NPO オーシャン・クリーンアップが過去 5 年間の開発で『プラごみ回収装置』を開発しました。回収不可能と言われた海洋プラスチックが、うまく行けば 1 年目には 50t のプラごみを回収出来るそうです。他にはスターボックスやその他大手企業のいくつかは既に、ストローの廃止や、紙ストローの使用、プラスチック容器の使用禁止など環境に配慮した動きが出てきています。

ロータリークラブではポリオ撲滅に全クラブが、認識を持ち活動していますが、私達も個人的、組織的にも今後は廃プラスチックにも、より目を向ける必要があると思えます。そして今回のような災害も起きないに越した事は無いが、起きた場合の想定外の危機管理、環境管理も十分考える必要があると思えます。

◆委員会報告

◎出席委員会 委員長 福田春彦

会員 50 名中 出席 21 名 出席率 42.86%

◎ニコボックス委員会 委員 酒井泉

会長・副会長・幹事の皆さん・・・危機管理課長 波多野一人様、ようこそ関 RC へ。豪雨災害の検証報告を依頼したところ、快くお引き受けいただきありがとうございます。当クラブも微力ながら、上之保地区復興ボランティアに参加させていただきました。今後のクラブ運営の参考にさせていただきますので卓話よろしくお願ひします。

杉浦孝志さん・・・危機管理課長 波多野様、本日は関ロータリークラブへようこそ。残念ながら例会には出席できず申し訳ありません。メンバーのために、いざという時の心構えを、よろしくお願ひします。

長尾、酒井、後藤、林(隆)、三輪、加藤(照)の皆さん・・・本日は、危機管理課の課長 波多野様、7 月 8 日の津保川の大洪水を踏まえて今後の関市の方向性について、お話をいただきます。期待しています。

東谷好司さん・・・10/17 のゴルフコンペでは、優勝気分から遠ざかっていましたが、それなりの実力と運によって優勝できました。ありがとうございます

た。また、来月 11 月に入ったら誕生日カードがたぶん届くので、前払いで投函いたします。(2 ポイント)

◆『平成 30 年 7 月豪雨災害の検証報告』 関市 危機管理課 課長 波多野一人様



①検証の目的

平成 30 年 7 月豪雨災害では、避難情報発令の判断、避難所開設と運営、情報伝達方法などの課題のほか、復旧作業においてもいくつかの課題があった。また、市民の安全な避難行動、自治会や消防団等との連携など、日頃から備えておかなければならないことの課題も見えてきた。このことから、今回の災害対応につい

て客観的に分析し、今後の災害時にも的確に対応できるように、関市地域防災計画やマニュアル等を見直し、災害対応力の向上と防災対策の強化を目的として本検証を行った。

②検証委員会・災害検証チーム

中村副市長を委員長にした各部局長で「災害検証委員会」を、災害対応に関係した各課長と上之保事務所長、武儀事務所長及び社会福祉協議会事務局長で「災害検証チーム」を設置した。

③検証項目

「災害警戒対応と避難判断の検証」

(1) 災害警戒体制と情報収集対策について

課題：状況の変化に伴い災害対策本部と事務所の連携、情報収集、職員の配備等に支障が生じた。

対策：職員の参集方法や基準など及び警戒時の本部と事務所の警戒対応を見直す。

(2) 避難情報の判断基準と情報伝達について

課題：津保川上流部の避難判断基準が無かったため、避難情報発令が氾濫後になってしまった。

対策：避難判断基準の検討とマニュアル化及び有効な情報伝達手段を検討する。

(3) 避難所の開設と運営について

課題：避難所の開設や運営において、市と避難場所である学校側の役割が統一されていなかった。

対策：市と学校側の役割を明確にし共通認識を図るとともに、安全が危惧される避難所を見直す。

(4) 関係機関との連携について

課題：災害直後の状況が共有できておらず、現場到着後、救助や復旧作業等に支障が生じた。

対策：関市と関係機関との連携、情報共有、相互支援による協力体制を築く。

「災害復旧対応と生活支援の検証」

(1) 被災調査と、り災証明書発行対応について

課題：迅速な対応のため被災者支援システムを使用せず発行したが事前準備等が不十分であった。

対策：被災者支援システムを使用して発行する手順の確認や環境整備について検討する。

(2) 道路、上水道、下水道の復旧対応について

課題：災害時の技術職員が不足しており、災害協定機関との連携が必要であった。

対策：他部局からの応援体制、技術職員の研修、災害協定機関との情報共有の連携を検討する。

(3) ボランティアの受け入れ対応について

課題：ニーズと作業が上手くマッチングできず、支援漏れや支援のムラなどもあった。

対策：ボランティア専門機関との「連携・協働」の構築とともにマニュアルを見直す。

(4) 廃棄物処理と宅内消毒の対応について

課題：(廃棄物) 仮置場の選定と、設置や閉鎖の時期が適切でなく、人員配置も不十分であった。(消毒) 泥出し作業後の消毒に時間を要し、また専門知識の

ある職員が少ない中で活動した。

対策：(廃棄物) 住民への有効な周知方法を検討するとともに、災害廃棄物処理計画を見直す。(消毒) 感染症予防の知識を持った職員が作業班に同行するなどのマニュアルを整備する。

(5) 支援物資、応援協定対応について

課題：協定先とのスムーズな仕入れや、被災者のニーズと物資のマッチングが困難であった。

対策：物資調達のニーズなど情報の把握方法の検討と、協定先との仕入れの手順を協議する。

(6) 災害救助法、生活再建支援の対応について

課題：担当部署の決定と要綱の制定や各種支援制度の把握に時間を要した。

対策：災害支援制度の内容の把握とその運用や手順を明確にしておく。

(7) 義援金等の対応について

課題：被害調査結果の修正によって義援金・支援金の支給額が変更になってしまった。

対策：被害調査(り災証明書の発行)と義援金・支援金の配分との連携を密にする。

(8) ボランティア輸送の対応について

課題：コース巡回ではなく目的地への直接輸送となり、計画どおりの運行とはならなかった。

対策：ボランティア輸送の運行方針を明確にしておく。「今後に向けた防災対策の検証・ソフト対策」

(1) 市民の防災意識向上について

課題：防災をテーマにした出前講座や防災訓練などは地域の自主性に任せることに留まっていた。

対策：地域ごとの安全な避難場所の選定や避難のルール作りなど地域の話し合いの場を推進する。

(2) 自主防災組織の役割と活動について

課題：自主防災会の役割と活動内容が住民間で共有できていなかった。

対策：自主防災組織の役割と活動を明確にし、また地域の自主的な訓練や活動を支援する。

(3) 職員の教育について

課題：通常業務とは異なる災害対応において迅速かつ的確な行動につなげることができなかった。

対策：訓練や防災研修を行い、職員としての意識と知識、技能の向上を図る。

(4) 消防団の教育について

課題：河川の巡視には危険が伴い、地域の危険箇所すべてには対応できなかった。

対策：災害時の役割や安全行動を明確にし、定期的な災害教育と処遇改善を推進する。

「今後に向けた防災対策の検証・ハード対策」

(1) 河川改修の実績と今後の計画について

課題：川幅が狭く大きく蛇行している津保川は局地的、短時間での記録的豪雨によって氾濫した。

対策：津保川、小那比川の堆積土砂の浚渫や河川改修事業要望を国や県に対し引き続き行う。

(2) 山林整備の実績と今後の計画について

課題：切捨てられた間伐材や河川際の樹木が大量の流木となり河川の氾濫に影響した。

対策：間伐方法では「利用間伐」を推進するとともに、倒れそうな立木を早期に処理する。

◆幹事報告

◎11月の例会予定表配布

次例会のご案内 11月13日(火)12:30
「I・Mの報告」 担当：会長、幹事

例会：毎週火曜日12:30

例会場：岐阜県関市本町6-20 大垣共立銀行関支店2F

事務局：岐阜県関市平和通7-10-25 アメリカ2F